

『だれかの笑顔のために』

感動の連続

令和7年がスタートしましたが、はやいものでもう1月も半ばを過ぎました。この間、たくさんの感動と出会うことができました。そのいくつかを紹介します。

<エピソード1>

1月4日に令和7年和水町20歳の式典に社会教育委員として参加いたしました。今回の20歳のみなさんは、ちょうど私が菊水中学校の教頭時代の生徒です。立派に成長された姿に出会うことができ、とてもうれしく思いました。式典の中で、20歳代表者の一人が、『けがや病気をした人を助けることができる看護師を目指している。けがや病気で苦しんでいるだれかの為がんばりたい。』と誓いのことばを述べてくれました。



<エピソード2>

私は、バレーボールが大好きで、毎年この時期に行われる「春の高校バレー」を見るのを楽しみにしています。女子の石川県代表は、創部2年目にして春高バレー初出場を決めた「日本航空石川」高校です。彼女たちの頑張りがテレビでも紹介されていました。

2024年元旦、石川県を襲った能登半島地震。輪島市にある「日本航空石川」も大きな被害を受け、学校も体育館も使用不可能になったそうです。練習拠点を失ったバレー部は、各地を転々とするようになりました。1月には、系列校のある山梨県へ。選手たちは、段ボールベッドで寝泊まりをする日々。4月からは、東京の明星大学のキャンパスを借り、校内の仮設住宅での生活。過酷な環境を乗り越えて彼女たちがつかんだ初の春高バレー出場。被災した方々は避難していらっしゃる中、自分たちはバレーを続けていいのかと不安を持ちながら過ごしていたキャプテンの次のことばに感動しました。

『バレーができることは当たり前ではない。自分たちのプレーを見せられるということは本当に素晴らしいことだと思う。石川の被災された方々に向けて勇気づけられたらいいなと思っていて、その方々全員に感謝の気持ちの恩返しができたらいいなと思います。』



<エピソード3>

5年生は昨年、地域の方々の協力を得て、田植えと稲刈りの体験学習を行うことができました。そして先日、家庭科の時間に収穫したお米を炊いて、実際に味わうことができました。その際、校長室にも炊き立てのごはんを持ってきてくれました。

すぐにいただきましたが、炊き立ての新米はすごくおいしかったです。お礼を言おうと食器とお箸をもって家庭科室に行くと、子どもたちは食器を洗っている最中でした。すると、近くにいた男子児童が、『先生、ぼくが洗います。』と私の手から食器を受け取ってくれたのです。その自然な行動にとっても感動しました。



ある本（「感動だけが人を動かす」永松茂久）に、「感動」について次のように紹介してありました。

感動は三つの要素がクロスしたときに生まれます。

ひとつ目は、大切な誰かのために、つまりフォー・ユーの気持ち。

ふたつ目は、一生懸命であること。

そして三つめは、その思いの純度。

一生懸命で純粋な姿が人の心を動かすのです